

# 海外の事業評価の取組について

# 費用便益分析における便益項目の各国比較（道路事業）



令和2年度第1回  
公共事業評価手法研究委員会  
資料より抜粋・一部加工

○ 道路整備に伴う効果は多岐多様に渡る一方、費用便益分析においては、我が国では十分な精度での貨幣換算が期待できる便益のみを考慮しており、各国と比較しても項目は限定的となっている。

国名	日本	イギリス	ドイツ	フランス	オランダ	ルウェー	スウェーデン	オーストラリア	ニュージーランド*	アメリカ カリフォルニア州	カナダ ブリティッシュコロンビア 州	韓国
走行時間短縮	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
走行経費減少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
交通事故減少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
温室効果ガス削減		○	○	○	○			○	○			○
騒音低減		○	○	○	○	○	○	○	○			○
走行時間信頼向上		△	○	○	○		○	○	○			○
広域的な経済効果		△			○				○			
地域分断の軽減			○					○	○			
水質汚染の改善								○				
大気汚染の減少		○	○	○	○	○	○		○			○
走行快適性の向上				○					○			
健康の増進		○										
間接税収の増加 (供給者便益)		○		○			○					
誘発交通			○									
景観						○		○				
選択肢の価値		△										
環境影響の効果										○		
政府の予算効果						○						
自然、文化遺産						○						

注: △(イギリス): 追加で算出可能な便益項目

# 英国の事業評価における費用便益比の位置づけ

**NIA 2018 国家インフラ評価** (国家インフラ委員会)  
30年間のインフラ長期戦略

**NIS2020 国家インフラ戦略** (財務省)  
長期戦略と主要施策の投資規模

**NICP2020/21 国家インフラと建設事業計画** (インフラ事業庁)  
10年間の投資総額、5年間の事業分野別/年別投資規模

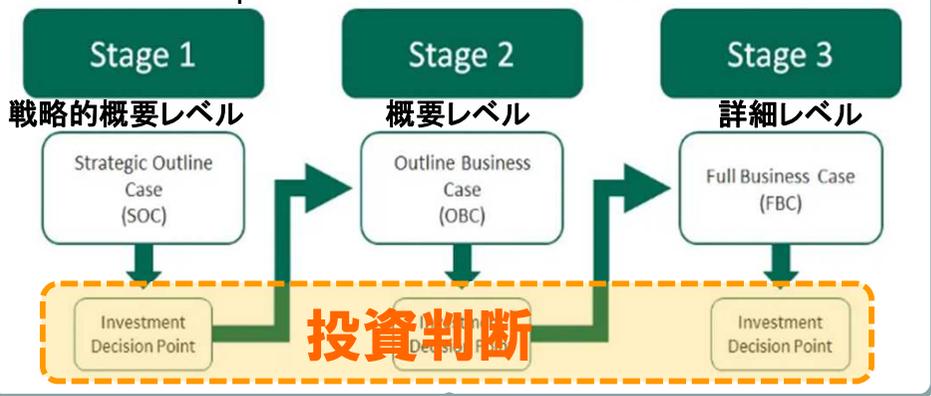
インフラ事業庁(大規模プロジェクト)

その他省庁

**運輸省**

<個別事業>

Transport Business Case の検討プロセス



**Green Book(※) 5つの検討側面**

1. Strategic 戦略
2. **Economic 経済**
3. Commercial 商業
4. Financial 財務
5. Management 管理

**Value for Money Framework** (運輸省)

**Established Monetised Impacts**  
確立された貨幣換算効果

- ・時間短縮
- ・走行費用削減
- ・事故削減
- ・騒音
- ・大気質
- ・温室効果ガス等

**Evolving Monetised Impacts**  
発展的な貨幣換算効果

- ・信頼性
- ・静的集積
- ・雇用創出等

**Indicative Monetised Impacts**  
示唆的な貨幣換算効果

- ・生産性向上
- ・動的集積
- ・投資喚起等

**Non-monetized Impacts**  
非貨幣換算効果

- ・安全保障
- ・アクセス性
- ・都市景観
- ・歴史環境
- ・生物多様性等

**Initial BCR**

4<=BCR	Very High
2<BCR<4	High
1.5<BCR<2	Medium
1<BCR<1.5	Low
0<BCR<1	Poor
BCR<=0	Very Poor

**Adjusted BCR**

4<=BCR	Very High
2<BCR<4	High
1.5<BCR<2	Medium
1<BCR<1.5	Low
0<BCR<1	Poor
BCR<=0	Very Poor

カテゴリーの調整

**Final Category**

Very High
High
Medium
Low
Poor
Very Poor

経済的側面の評価結果

※ Green Book :財務省が策定した政策全般の評価指針。事業化に向けた意思決定手法を提示。  
(小池淳司神戸大学教授らによる英国運輸省等へのヒアリング結果等を参考)